

如月のころ

2月到来。「如月」は、寒さのため衣を重ねるところから「衣更着」とも、陽気が発達する時節ということから「気更来」、また、草木の芽の張り出す月だから「草木張月」などと表現され、その語源はまだあるようです。

また、2月は「梅見月」ともいわれるように、月の花は梅であり、各地から梅の便りが届いているようです。

四季に恵まれたわが国には、花木を觀賞して楽しむ言葉がいろいろとあります。例えば、桜は花見と言ひ、秋には紅葉狩り、梅なら探梅などの言葉が情緒豊かに漂います。

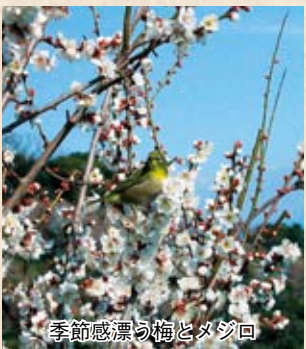
探梅や遠き昔の

汽車にのり(山口誓子)

記憶の中に開く花一輪を想つての句なのででしょうか。

梅は寒さの極まる時節、百花に先駆けて咲きます。その早咲きを山野に探すという言葉の意味でしょう。

さて、その探梅も立春を過ぎれば観梅に変わります。探梅は一輪ほどのあたたかさを



季節感漂う梅とメジロ

いとおしみ、観梅は盛りの色香漂う花を愛でるといった、季節の移ろいを現した絶妙な言葉です。

ところで、理科のテストで「氷が溶けたら何になる?」という質問に、ある子どもが「水になる」ではなく「春になる」と答えたといひます。テストで「春になる」と答えた子どもの豊かな感性には恐れ入ります。

二十四節気の雨水、水ぬるみ始めるころ。幼い答えを正解とすべく季節がめぐる如月のころ。早春の風はまだ冷たいですが、落ち葉の下や土の中にさまざまな越冬中の命が息づいています。

指宿市長 豊留悦男